

## 2 平成 28 年度事業計画（当初計画）

平成 28 年度の SGH 事業の当初計画は以下の「研究開発実施計画書」のように企図していた。なお、重点項目は後掲の 28 年度の成果と課題を参照されたい。

<平成 28 年度研究開発実施計画書（抜粋）>

研究開発名

「多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成」

研究開発の概要

「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を大テーマとした課題研究を通して、多文化共生社会の実現を牽引し、現代社会および未来につながる課題解決に主体的に取り組むために必要なコンピテンシー、特に「組織力」「対話力」「実行力」を養い、それを活かしたアクションを起こせる生徒を育成する。

①課題研究および各教科の授業、国際教養群の授業における探究的学習を通して、コンピテンシーの育成と伸長を促すための体系を整備し実践する。学習領域「国際教養」において、生徒の課題研究を現実的な課題に適う高次のレベルに引き上げるための構造的な変更を行う。具体的な取組としては以下の事業がある。

- ・課題研究を実施する核となる「国際教養」（総合的学習の時間）の体系化
- ・課題研究のためのフィールド調査を目的とした海外派遣
- ・課題研究のための情報収集および異文化交流による研究の深化を目的とした海外研修
- ・課題研究のためのフィールド調査および情報収集を目的とした国内研修
- ・課題研究を実践につなげる支援企業参加のコンペティションの実施
- ・課題研究の発表および深化の機会としての Global Café の実施
- ・課題研究に基づいた SGHAct による学校外活動の単位認定

②課題研究の質の向上および課題研究と評価方法策定のための外部連携を強化し、生徒課題研究を中核としてネットワーク化する。

③生徒のコンピテンシーを評価するための指標・規準の確立を含む評価方法について、連携大学・企業・国際的組織と共同した研究・開発体制をとる。

事業の実施期間

契約日～平成 29 年 3 月 31 日

平成 28 年度の研究開発実施計画

①後期課程の「国際教養」領域（総合的学習の時間を含む）について、前年度までの実施体制を改変し、より高度な課題研究の進行を支えるためのカリキュラムを遂行する。

・国際 4（Personal Project）・国際 5・国際 6 と 3 学年に分かれて実施していた課題研究の体制を改変し、

4 年次 4 月～12 月 IB Personal Project および課題研究 I 準備

4 年次 1 月～3 月—5 年次 4 月～12 月 課題研究 I

5 年次 1 月～3 月—6 年次 4 月～12 月 課題研究 II

のように、学年を跨いでの「課題研究」の実施体制とする。

・6 年次の国際 A・B において従来の講座の他に「ファシリテーター実践」「国際協力と社会貢献」の二講座を継続して開設し、課題研究を推進する高度な研究スキルを育成する。

②仮説 I の課題研究を実施する。

・①で述べた体制で実施する。時間割上同時開講とし、学年を超えた形での情報共有や指導体制を継続する（既に 4 月より開始）。

・7 月に英国 University College London にて開催される UCL グランドチャレンジに参加し、英国の高校生・大学生とディスカッションを行う。

・年度後半に、東南アジア・南アジアをフィールドとした課題研究のための調査派遣を行う。候補先は「カンボジア」「フィリピン」「バングラデシュ」「ミャンマー」「ネパール」等である。

・海外派遣の事前学習や課題研究の支援としての国内研修を行う。

・課題研究の支援・推進のための「Global Café」を開催する。

・課題研究成果の評価および発表の機会として「ISS チャレンジ」を実施する。

③教科授業内・教科間連携（IBMYP Interdisciplinary Unit の実施を含む）において課

- 題研究テーマを取扱う。
- ④仮説Ⅱの実施に必要な外部連携のネットワークを構築し、連携事業を継続して実施する。
- ⑤課題研究の発展をねらいとした高大連携を深めるため、高大接続入試を活用した制度の設定を検討する。
- ⑥仮説Ⅲの実施の第2段階として、育成すべき資質・能力についての評価を外部と連携して行う。そのために、外部機関を含めた評価規準・方法策定会議を開設する。
- <内部評価>
- ・課題研究の指導者等校内の教員によるルーブリックを用いた評価を策定する。
  - ・育成すべき資質・能力の評価方法の検討と試行を行う。
- <外部評価>
- ・外部コンテストや研究発表会への参加とその機会を利用した評価の試行を行う。
  - ・外部連携機関によるルーブリックを用いた評価と検証を行う。
- ⑦SGHActの単位認定制度のための検討と試案作成を行う。
- ⑧ポスト・アクティブラーニングについて具体的形態を構想し、授業内での試行を行う。

#### 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
課題研究	指定校および外部連携機関	杉本紀子 (SGH 委員会主任)
海外派遣事業	イギリス (University College London)	杉本紀子 (SGH 委員会主任)
	東南アジア・南アジア (候補地: フィリピン・カンボジア・バングラデシュ・ミャンマー・ネパール)	長友結希 (SGH 委員会)
国内研修・交流事業	国内 (候補地: 名古屋・長野)	中村文宣 (SGH 委員会)
国際 A/B 「ファシリテーション実践」「国際協力と社会貢献」	指定校	杉本紀子 (SGH 委員会主任) 藤木正史 (SGH グループ)
Global Café 実施	本校および外部連携機関	長谷川智大 (SGH 委員会)
ISS チャレンジ実施	指定校	杉本紀子 (SGH 委員会主任) 校内 SGH 委員会
外部連携ネットワーク構築	管理機関・指定校および外部連携機関	管理機関: 東京学芸大学 SGH 推進委員会 (出口利定・佐藤正光) 指定校: 杉本紀子 (SGH 委員会主任)・国際教養委員会主任・交流委員会主任
外部連携評価事業 (課題研究について)	管理機関・指定校および外部連携機関	管理機関: 東京学芸大学 SGH 推進委員会 (出口利定・佐藤正光) 指定校: 杉本紀子 (SGH 委員会主任)・国際教養委員会主任
SGHAct 単位認定制度検討	指定校	杉本紀子 (SGH 委員会主任) 高橋広明 (教務部主任) カリキュラム委員会主任

評価方法・規準の策定	管理機関・指定校および外部 連携機関	杉本紀子 (SGH 委員会主任) 国際教養委員会主任 評価規準・方法策定会議 (仮)
------------	-----------------------	--

課題項目別実施期間

業務項目	実施期間 (28年5月1日 ~29年3月31日)											
	月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
課題研究	←											→
海外派遣			←	→				←	→			→
国内研修			←	→					→			
国内交流			←	→				←	→			
国際 A・B 開講・実施	←											→
Global Café		←	→									→
ISS チャレンジ	←											→
外部連携構築	←											→
外部連携評価	←											→
SGHAct 制度検討	←											→
評価方法・基準策定事業		←	→									→